

## 故藤井啓行教授略歴及び業績一覧

### 略 歴

- 昭和3年9月22日 [redacted]にて誕生
- 昭和16年4月 大阪府立住吉中学校入学
- 昭和20年3月 同校卒業
- 昭和20年4月 海軍経理学校入学
- 昭和20年8月 終戦により廃校
- 昭和21年4月 大阪高等学校文科入学
- 昭和24年3月 同校卒業
- 昭和24年4月 東京大学文学部独逸文学科入学
- 昭和27年3月 同校卒業
- 昭和27年4月 東京大学大学院（独逸語・独逸文学専攻）入学
- 昭和29年5月 同校退学
- 昭和29年5月 金沢大学法文学部専任講師（昭和34年3月まで）
- 昭和34年4月 関西大学文学部助教授
- 昭和36年9月 フンボルト財団留学生としてドイツ連邦共和国留学（昭和38年10月まで）
- 昭和40年4月 関西大学文学部教授
- 昭和44年10月 関西大学教養部長（昭和47年9月まで）
- 昭和47年10月 フンボルト財団の招待によりドイツ連邦共和国等学術調査（昭和48年3月まで）
- 昭和48年11月 関西大学大学院文学研究科長（昭和50年10月まで）
- 昭和54年10月 関西大学文学部長（昭和56年9月まで）
- 昭和59年10月 関西大学在外研究員としてドイツ連邦共和国等学術調査（昭和60年3月まで）
- 平成3年6月 関西大学大学協議会協議員（平成5年5月まで）
- 平成6年2月24日 肝不全のため逝去
- 在職中、大阪大学・大阪市立大学にて非常勤講師を務める

## 所属学会等

ドイツ語学文学振興会評議員  
日本ゲーテ協会評議員・京阪神支部幹事  
ヘルマン・ヘッセ友の会副会長  
森 鷗外記念会評議員

## 研究業績

論文：

- 文学と社会（昭和27年9月，カメラアデン会「Kameraden」第3号）
- シュトリヒのリルケ論（同上）
- 「デーミアン」のヘッセにおける意義（昭和30年12月，金沢大学法文学部論集文学篇3）
- ヘルマン・ヘッセの「シッダルータ・印度の詩」（昭和33年1月，同上 5）
- イヒ・ロマーンの一考察（昭和33年10月，日本独文学会「ドイツ文学」21）
- ヘッセの「ナルチスとゴルトムント」について（昭和34年10月，関西大学独逸文学会「独逸文学」4）
- Marie Antoinette——伝説小説の考察——（昭和39年12月，同上 10）
- カルフ・マウルブロン——文学とふるさと——（昭和42年2月，同上 12）
- ヘッセの再検討に寄せて（昭和49年4月，同上 19）
- ノヴァーリスの世界観における愛の意義（昭和50年3月，関西大学「文学論集」24巻 3-4）
- 日本におけるヘッセ問題（昭和50年11月，同上 90周年記念号）
- Die Rezeption von Hermann Hesse in Japan（昭和51年5月，Kohlhammer Verlag「外国におけるドイツ文学の受容」ドイツ文）
- ふたたび日本におけるヘッセ問題について（昭和52年3月，関西大学独逸文学会「独逸文学」21）
- 最近のヘッセ文献をめぐって（昭和52年3月，関西大学「文学論集」26

巻3)

- ヘッセ回想（昭和52年5月，郁文堂「Brunnen」193）
- 書簡集に表れたヘッセ像（昭和53年3月，関西大学独逸文学会「独逸文学」22）
- ヘッセの「世界史」について（昭和53年4月，日本ヘッセ協会「Hesse」6）
- ヘッセ受容の問題点（昭和54年3月，関西大学独逸文学会「独逸文学」23）
- デシュナーのヘッセ論考察（昭和54年3月，関西大学「文学論集」28巻4）
- アイヒェンドルフと私（昭和57年11月，日本アイヒェンドルフ協会「あうろーら」6）
- ゲーテとヘッセ（昭和57年12月，阪神ドイツ文学会「ドイツ文学論攷」24）
- 森 鷗外とドイツ(1)（昭和61年8月，日本ベーリンガーインゲルハイム「Neue Informa」8—'86）
- 森 鷗外とドイツ(2)（昭和61年9月，同上 9—'86）
- 森 鷗外とドイツ(3)（昭和61年10月，同上 10—'86）
- 森 鷗外とドイツ(4)（昭和61年11月，同上 11—'86）
- ヘッセの足跡（昭和63年1月，日本ベーリンガーインゲルハイマー「Ingelheimer」2）
- 「森 鷗外展」雑感（昭和63年7月，森鷗外記念会「鷗外」43）
- シュレーゲル兄弟とゲーテ（平成4年3月，関西大学「文学論集」41巻4）
- シュトルム断想（平成4年4月，日本シュトルム協会会報 19）

その他：

- デミアン（昭和45年12月，第三書房「初級ドイツ語」45-12）
- 日本のヘルマン・ヘッセ協会（昭和50年3月，三修社「基礎ドイツ語」11-3）
- ドイツ文学漫步（昭和52年6月，関西大学「関大通信」75）

- ポーランド寸描（昭和54年 5月，日本ゲーテ協会「べりひて」20）
- 文学の世界（昭和55年 4月，関西大学広報委員会「'80大学」）
- ヘッセと日本人（昭和55年12月，関西大学教育後援会「葦」57）
- 冬のフーズム（昭和60年 7月，日本シュトルム協会会報 6）
- サンスーシ宮（昭和62年11月，三修社「MD」87-11）
- 歿後 100 年記念「国際シュトルム祭」参加報告（平成 1 年 3 月，日本シュトルム協会会報 13）
- 歿後 100 年記念「国際シュトルム祭」に参加して（平成 1 年 6 月，関西大学逸独文学会「独逸文学」33）

#### 翻 訳：

- フォルカー・ミヒェルス「ヘッセの《内面性》と言葉について」（昭和 50 年 4 月，日本ヘッセ協会「Hesse」5）
- ゲーテ「ライネケ狐」（昭和55年 9 月，潮出版社「ゲーテ全集 2」収載）
- H. J. シュタイン「ヘッセ《議会外野党》と他のアウトサイダーたち」（昭和57年12月，三修社「ヘルマン・ヘッセをめぐって」収載）
- ヘッセ書簡集（全 4 巻）（平成 6 年 月）

#### 書評・新刊紹介：

- 八匠衆一「地宴」（昭和33年12月，金沢市，北国新聞）
- 生きている表現主義（昭和52年 9 月，関西大学「関大通信」77）
- H. Hesse: Gesammelte Briefe in 4 Bdn., 1. '73, Suhrkamp（昭和 52 年12月，阪神ドイツ文学会「ドイツ文学論攷」19）

#### 部分執筆：

- ドイツ文学辞典（昭和31年 3 月，日本独文学会・河出書房「レーマン」他に 3 項目）
- 新百科辞典（昭和59年11月，小学館「ヘッセ」他に 4 項目）
- プラス・ドイツ語辞典（平成 5 年 1 月，三修社「ドイツの文学」の項）

編 注：

- 中級ドイツ語の研究（昭和47年10月，朝日出版社「参考書」信岡資生氏と共著）

- Moderne deutsche Grammatik für Anfänger（平成2年2月，芸林書房）

他に文法書・文法読本多数

- Deutsche Gegenwart —ein literarisches Lesebuch—（昭和50年2月，芸林書房）

他にヘッセ，アイヒェンドルフ，アンデルセン，その他の編注テキスト多数